

2025 年度入学 AO 入学試験(4 期) 小論文課題

千葉商科大学大学院
会計ファイナンス研究科

次の 3 つの課題(I、II、III)から 1 題を選んで解答しなさい。

I 「会計に関する課題」

以下の問題 A か問題 B のいずれかを選択して解答しなさい。なお、問題 A と B のどちらを選択したか冒頭に必ず明示すること。

問題 A

企業の財務諸表を構成する損益計算書、貸借対照表、キャッシュフロー計算書は、投資家の意思決定において、重要な情報を提供するものとなっています。

(別添の資料 1「損益計算書」、別添の資料 2「貸借対照表」、別添の資料 3「キャッシュフロー計算書」2024 年 4 月 10 日から 4 月 12 日、日本経済新聞)

これに関連して、以下の問に答えなさい。

1. 損益計算書は、利益の源泉を区分して表示しています。別添の資料 1 にあるように、為替相場変動は多くの企業に影響を与えています。ドル建てで取引を行っていることを前提として、①取引の発生による利益への影響、②期末の金銭債権債務(外貨預金を含む)による利益の影響について、円安の場合において述べなさい。なお、別添の資料 1 の図(損益計算書の主な項目)のどの利益に影響を与えるかについて、必ず記載すること。
2. 貸借対照表は、期末時点のストックを表示しています。別添の資料 2 にあるように、従業員の価値やブランド力など貸借対照表に載らない「非財務情報」が重視されています。①従業員の価値やブランド力は、なぜ貸借対照表に計上されないか会計処理の面から述べなさい。②また、買収などによるのれん(無形資産)の計上は認められますが、例えば、サンリオのキャラクターの価値を貸借対照表に計上すること(自己創設のれん)は認められません。この理由を述べなさい。
3. キャッシュフロー計算書は 2000 年 3 月期から導入されています。キャッシュフロー計算書の必要性について述べなさい。

【次ページに続く】

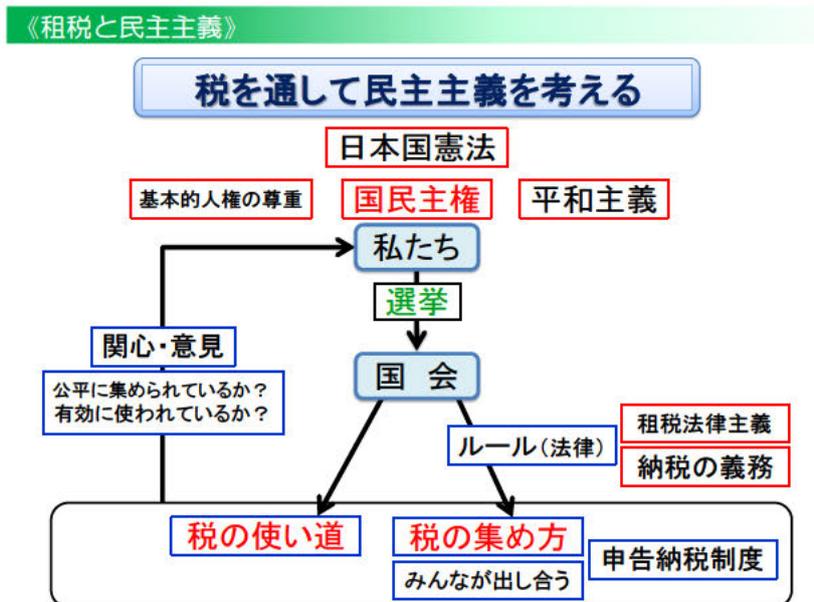
問題 B

別添の資料 4 は 2006 年に企業会計基準委員会より公表された『討議資料 財務会計の概念フレームワーク』の第 2 章「会計情報の質的特性」の本文を抜粋したものである。別添の資料 4 を読んで以下の問いに答えなさい。

1. 会計情報の質的特性とは何か、財務報告の目的との関係に焦点を当てて簡潔に説明しなさい。
2. 『討議資料 財務会計の概念フレームワーク』において会計情報の質的特性として挙げられている概念を説明し、それぞれの概念間の関係性をわかりやすく図示しなさい。
3. 下線部(①)について、意思決定との関連性と信頼性を同時に満たせる情報とトレードオフとなる情報としてはそれぞれどのようなものが想定できるか、記述から推測して答えなさい。

II 「法律(税法・会社法・その他関連法)に関する課題」

1. 以下の図を参照して、「租税と民主主義」について論じなさい。
2. 上の議論を基底に、自由主義と民主主義のそれぞれの観点から「租税法律主義」を論じなさい。



(出典: 日本税理士会連合会「租税教育用テキスト」)

【次ページに続く】

(参考)

- 憲法第 30 条

「国民は、法律の定めるところにより、納税の義務を負ふ。」

- 憲法第 84 条

「あらたに租税を課し、又は現行の租税を変更するには、法律又は法律の定める条件によることを必要とする。」

III「ファイナンス・その他時事問題に関する課題」

別添の資料 5 は、2025 年 1 月の在宅勤務に関する新聞記事です。

トヨタ自動車の北米本社では、週4回の出社を義務づけたものとしたものである。このように出社を義務づける企業を多く見られるようになった。

在宅勤務と出社勤務に関する以下の設問にすべて答えてください。

この課題は、出題テーマに関する知識を尋ねるものではなく、回答者が自身の考えを相手に伝えることができるかが重視されます。よって、論理的かつ具体的、詳細に記述ください。箇条書きを望みます。

1. 雇用する企業の立場にたって出社を義務化するメリット
2. 従業員の立場にたって出社するメリット
3. 回答者自身の経験等をふまえて、在宅勤務と出社勤務を組み合わせる方法やそのメリット

※別添資料は、著作権保護された素材（新聞記事等）を含むため、
掲載しておりません。